

水レター「びわ湖・よど川」

2011. 12【vol. 19】
独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における水資源機構に関する情報、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を関西管内の関係者（利水者、関係府県、関係市町村及びその他の関係機関）の皆様にご直接配信させていただきます。

さて、水レター「びわ湖・よど川」も、今年最後の発行となりました。今年1年、水レターをご愛読くださりまして、ありがとうございました。

来年も、より良い情報発信を行なえるよう努力してまいりますので、今後とも、よろしく願いいたします。

目 次

1. 琵琶湖開発20周年記念行事 シンポジウム琵琶湖開発事業の過去・現在・未来	1 p
2. 平成23年の管理状況について	3 p
3. 10月および11月の気象状況	5 p
4. ～疑問に答えるコーナー～ 一者応札の改善状況について	6 p
5. 【報告】関西管内の行事について ・「水都おおさか森林(もり)の市」で機構事業をPR ・「琵琶湖・水辺の環境展」開催報告 ・「来て見て体験in村野浄水場」イベント開催される ・「尼崎浄水場特別開放イベント2011」に行ってきました ・水源地マラソン紀行	7 p 8 p 9 p 10p 11p
6. 編集後記	12p

琵琶湖開発20周年記念行事

シンポジウム琵琶湖開発事業の過去・現在・未来

琵琶湖の上下流域で暮らす人々の豊かで安全な暮らしを支えるために、1972年（昭和47年）から92年（平成4年）の間にわたって、琵琶湖総合開発特別措置法に基づき、『琵琶湖総合開発事業』の一環として「治水・利水・環境保全」を中心とした『琵琶湖開発事業』が行われました。

事業の完了に伴い1992年（平成4年）4月からは、瀬田川洗堰操作規則に基づく操作、事業で整備された施設の操作や維持・修繕などの業務を行い、治水と安定した水利用、琵琶湖の水辺環境の保全の取り組みが行われています。

琵琶湖開発事業は、関係府県・利水者・地元地域住民の多くの方々のご協力とご支援により、平成4年4月から管理を開始し、20年を迎えるに至りました。

この20年の節目を祈念して、11月5日（土）13時から、滋賀県大津市生涯学習センターにおいて、琵琶湖開発事業の概要と意義、さらに、この20年間の効果と現時点の課題を再認識し、今後のより良い管理に資する契機として、「琵琶湖開発事業の過去・現在・未来 ー管理20周年を迎えてー」と題して、シンポジウムが約200名の市民が参加する中で開催することが出来ました。

事業内容について、主催者である国土交通省琵琶湖河川事務所および水資源機構琵琶湖開発総合管理所から報告を行いました。

芥川賞受賞作家である高城修三先生から「琵琶湖のある風景」と題して、基調講演がありました。講演内容は、琵琶湖の地域は、①日本仏教の発祥は、比叡山である ②日本の交通の要衝である ③日本文学の発祥である というものでした。滋賀県民は、意外に素晴らしさに気づいていない。この史実をきちっと受け継いで行くことが大切であり、地域がもっと誇りに思い、地域が自ら積極的に発信して欲しい。琵琶湖開発事業の管理を20年間行うことも同様である。最後に、琵琶湖を誇りとして、世界遺産にとの提唱がありました。

次に、パネルディスカッション（討論）において

【主な内容】

- ・ 琵琶湖開発事業は、治水・利水の安全度の向上、さらに上下流の連携、湖へ親しむ機会の拡大等の効果があり、一部の人しか近づけなかった琵琶湖が、湖岸堤が出来たことによって、誰にとっても身近になり親しみやすくなった。
- ・ 琵琶湖開発事業が人々の生活を豊かで安全にした。一方、その後の環境変化と琵琶湖保全について、治水・利水面のリスクを念頭に、生態系の保全についても、重視して考えるべきである。
- ・ 琵琶湖開発事業完了後、魚の漁獲高が減少している。原因の一つとして瀬田川洗堰による水位操作が影響していると思われる。魚の産卵に配慮した水位操作が試験的に実施されているが、時期により試行操作は難しいとされている。今後、試

行操作の実施や操作規則の見直しの議論が出来ないか。

- ・ 地域がもっと琵琶湖の魅力を感じる取り組みや創意工夫が大切である。
- ・ 昭和40年代は、水が逼迫していたが、琵琶湖開発事業において、淀川下流地域の大きいなる発展に繋がったことは大きい。琵琶湖開発事業には、感謝している。
- ・ 琵琶湖は、単なる「水がめ」ではなく、「生きている存在」であるとの思いに感銘を受けた。
- ・ 琵琶湖総合開発事業は、水資源開発と地域振興の最初の良いモデルとなった。また、流域がガバナンスの構築をもたらした。上下流の連携が生まれた事で非常に良かった。
- ・ 琵琶湖そのものが400万年の歴史を持つ「生き物」であり、人間の生活と折り合いをつけることが必要である。
- ・ 琵琶湖開発事業は、自然景観との調和を図った湖岸堤・湖岸道路に触れ「後世に誇れる事業だった」

との意見が出され、今後の治水・利水・環境をどのようにマッチングし調和させていくかが議論されました。

社会基盤整備として、総合的に琵琶湖開発事業が行われたが、現在では、あたり前のこととして生活している。今後も、琵琶湖を守っていくには、上下流の地域が連携し、持続可能な取り組みが必要であり、それを私たちがどう進めていくかが大切であると締めくくられました。

最後に、水資源機構関西支社長から、「高城先生から基調講演がありました“日本仏教の発祥の地、日本文学の発祥、交通の要衝”である琵琶湖をきちっと受け継ぎ、大切にしていけることが我々の使命であり、提唱された“琵琶湖を世界遺産に”との言葉を大切にしていましましょう。」と閉会の言葉を述べました。

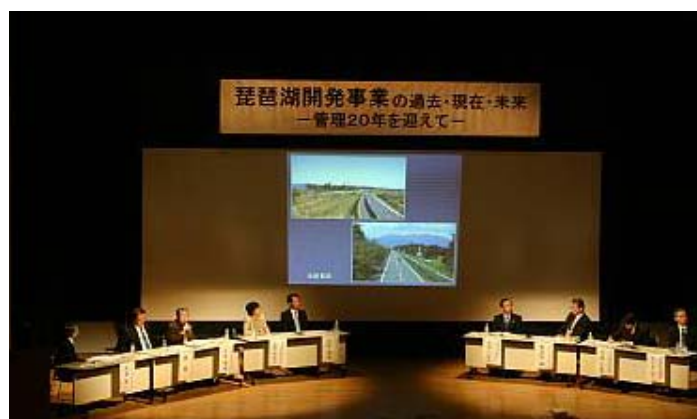
私たちも、このシンポジウムを契機に、さらに治水・利水・環境保全に努めながら、過去に築かれた歴史を大切に、後世に残る琵琶湖にしていかなければならないと思っております。

各利水者や府県の皆様におかれましては、御多忙な時期にも関わらず、シンポジウムにご参加いただき、有り難うございました。

詳しくは、(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所HPをご覧ください。

<http://www.water.go.jp/kansai/biwako/html/news/11111401/index.html>

(利水者サービス課)



(学識経験者や琵琶湖開発事業に関わった方々によるパネルディスカッション)



■ 平成23年の管理状況について ■

関西管内において、前線の影響による降雨により8回、台風の影響により4回の防災体制を執り、水資源開発施設において、下記のような操作を行い、効果を発揮しました。

洪水期前の5月10～12日にかけて、日本付近に停滞していた前線は西日本各地に大雨をもたらしました。この時の琵琶湖流域の降雨量は約170mmに達し、琵琶湖開発総合管理所では、機構の管理する14箇所の排水機場のうち13箇所の排水機場のポンプを運転し、琵琶湖沿岸の浸水被害を防止・軽減するための操作を実施しました。琵琶湖開発総合管理所では、管理を開始した平成4年度以降、大規模なものとしては平成7年5月、平成18年7月以来、5年ぶりの内水排除操作となりました。また、京都府にある日吉ダムでは、5月の出水としては管理開始以来最大となる流入量（毎秒390 m³）を記録し、防災操作を行い下流河川の水位低減を図りました。

5月27日には台風2号の影響により梅雨前線の活動が活発となり、琵琶湖流域の降雨量は約165mmに達しました。琵琶湖水位が上昇したことから、琵琶湖開発総合管理所では、5月29日から6月5日にかけて13箇所の排水機場のポンプを運転し、琵琶湖沿岸の浸水被害を防止・軽減するための操作を実施しました。なお、平成23年5月は管理開始以降初めて、ひと月に2回、ポンプの操作を行いました。また、日吉ダムでは本年2回目の防災操作を行い下流河川の水位低減を図りました。

7月20日には、大型で強い勢力の台風6号が紀伊半島に接近しました。台風6号は、速度が遅く、広い範囲で長時間の降雨をもたらし、日吉ダムにおいては、本年3回目の防災操作を行い下流河川の水位低減を図りました。

9月には、台風12号、15号と相次ぐ上陸により、日本各地で大きな被害をもたらしました。台風12号の降雨により、高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダムで防災操作を実施しました。特に、名張川上流3ダム（青蓮寺ダム、比奈知ダム、室生ダム）では淀川ダム統合管理事務所長指示による連携したダム操作を実施し、ダム下流の名張市名張地点の水位がはん濫危険水位を上回ることを回避し、下流被害を軽減しました。また、台風15号では、日吉ダムで本年5回目の防災操作を実施しました。この降雨で下流河川がはん濫危険水位を上回る可能性があったため、淀川ダム統合管理事務所長指示により更に少ない放流量とし、亀岡市保津橋地点の水位がはん濫危険水位を上回る事を回避しました。日吉ダムに於いて、1年に5回の防災操作を実施したのは管理開始以降最大の記録となりました。

また、台風6号、台風12号の接近に伴い、高潮による市街地の浸水被害を防ぐため、中津川管理室「高見機場」において排水ポンプを運転しました。

今年は、8月に少雨となり、渇水も心配されましたが、幸い大きな渇水には至りませんでした。

今後とも、引き続き、高水、低水とも万全な管理を行ってまいります。



今年の主な出水

日 時	気象状況	(関西管内)水資源機構施設の状況
5月10日～12日	日本付近に前線が停滞し、西日本各地で大雨となった。	・琵琶湖開発総合管理所で内水排除(排水機場のポンプ運転)を実施。 ・日吉ダムで防災操作を実施。
5月27日～30日	日本の南に停滞する梅雨前線と台風2号の影響により全国的に大雨となり、福井県周辺で記録的な大雨となった。	・琵琶湖開発総合管理所で内水排除(排水機場のポンプ運転)を実施。 ・日吉ダムで本年2回目の防災操作を実施。
7月20日～21日	徳島県に上陸した台風6号は速度が遅く、四国や紀伊半島では、記録的な大雨となった。	・日吉ダムで本年3回目の防災操作を実施。 ・中津川管理室「高見機場」で排水ポンプを運転。
8月31日～9月4日	高知県東部に上陸した大型の台風12号はゆっくりと北上し、西日本から北日本にかけて広い範囲で記録的な大雨となった。和歌山県、奈良県、三重県などで土砂災害、河川の氾濫など多数の死者・行方不明者が出る大災害となった。	・台風12号の影響により、比奈知ダム上流域における流域平均雨量の累計は、838.9mmを記録。 ・高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダムで防災操作を実施。名張川3ダム(青蓮寺ダム、比奈知ダム、室生ダム)で連携操作を実施。 ・中津川管理室「高見機場」で排水ポンプを運転。
9月19日～22日	紀伊半島沖を北上した大型の台風15号は、静岡県に上陸し、西日本から北日本に大雨をもたらした。	・日吉ダムで本年5回目の防災操作を実施。

【台風12号の特徴】

台風12号は、8月25日にマリアナ諸島付近で発生し、徐々に発達しながら北上したが、亜熱帯高圧帯の気圧の尾根と太平洋高気圧によって進路を失い、小笠原諸島近海に停滞した。一時西に進んだ後、勢力を保ちながら再びゆっくりと北上し、四国地方へ上陸した。その後も速度を速めることなくほぼ真北へと進路を取り、岡山県・鳥取県を縦断し日本海へと抜けたのち、9月5日に温帯低気圧となった。



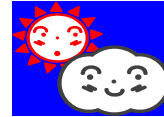
【台風12号(8/25~9/5)の経路】

台風が大型で動きが遅かったため長時間にわたり台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となった。

高気圧が張り出すなど、同様の気圧配置には、長雨になる可能性があるので注意が必要である。

(施設管理課)

10月および11月の気象状況



10月の近畿地方は、低気圧と高気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しました。10月は、暖かい日と肌寒く感じる日の変動が大きかった様に感じました。

また、11月は、例年に比べると暖かい日が多かったですが、低気圧や南からの湿った気流の影響を受けて、曇りや雨の日が多い様にも感じました。

10月の各施設の雨量は、一庫ダム 190 mmとなり平年比の 164%を記録しました。また、青蓮寺ダム 142 mm、琵琶湖 141 mmとなり、平年比を 1 割程度上回りました。なお、雨量が平年比を下回った施設は、高山ダム 111mm(96%)、比奈知ダム 148mm(89%)、布目ダム 103mm(82%)、日吉ダム 106mm(73%)でした。

11月の各施設の雨量は、布目ダムで 62mm(83%)、日吉ダムで 53mm(72%)となり、平年値を下回りましたが、その他の施設では、概ね平年並みでした。

(施設管理課)

10月の各ダムの降雨量

(単位：mm)

	琵琶湖開発			高山ダム			青蓮寺ダム			室生ダム		
	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比
10月の雨量	128.0	141.0	110%	116.0	111	96%	130.0	142	109%	134.0	135	101%
10月までの累計雨量	1466.9	1731.6	118%	1292.0	1536.0	119%	1315.0	1832.0	139%	1335.0	1810.0	136%

	布目ダム			比奈知ダム			一庫ダム			日吉ダム		
	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比
10月の雨量	126.0	103	82%	167.0	148	89%	116.0	190	164%	146.0	106	73%
10月までの累計雨量	1281.0	1609	126%	1334.0	2030	152%	1230.0	1439	117%	1161.0	1326	114%

11月の各ダムの降雨量

(単位：mm)

	琵琶湖開発			高山ダム			青蓮寺ダム			室生ダム		
	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比
11月の雨量	101.0	101.5	100%	73.0	72	99%	74.0	80	108%	83.0	93	112%
11月までの累計雨量	1567.9	1833.1	117%	1365.0	1608.0	118%	1389.0	1912.0	138%	1418.0	1903.0	134%

	布目ダム			比奈知ダム			一庫ダム			日吉ダム		
	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比	平年値	H23年観測値	平年比
11月の雨量	75.0	62	83%	68.0	76	112%	66.0	69	105%	74.0	53	72%
11月までの累計雨量	1356.0	1671	123%	1402.0	2106	150%	1296.0	1508	116%	1235.0	1379	112%

- ※1 平年値とは、各施設（ダムおよび琵琶湖開発）の管理開始から平成 22 年度までの各月累計雨量を相加平均した数値
- ※2 琵琶湖は流域平均雨量、各ダムはダム地点雨量
- ※3 本観測値は、速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。



疑問に答えるコーナー

利水者サービス課

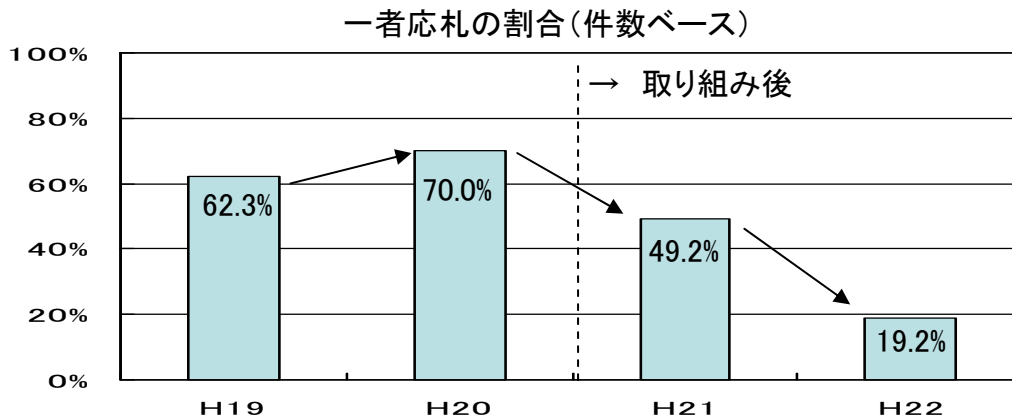
～ 一者応札改善の取り組み ～

水資源機構では、昨年実施され行政刷新会議による「事業仕分け」において、契約について見直しを図るよう評価結果が取りまとめられました。

また、一者応札の改善に向けた取組については、平成21年度から行っておりますが、利水者の方々から、「どの様な取組を行っているのか教えて欲しい」とのご要望が寄せられています。これらの質問について、以下のとおりお答えいたします。

なお、詳しくお知りになりたい場合には、関西支社利水者サービス課までご連絡をお願いします。

- 契約の競争性、透明性を確保するため、H19より一般競争入札の実施件数を拡大してきましたが、一者応札の割合が高くなる状況になりました。
- 入札への応札者を増やすため、H21以降の契約については、以下の取組み等を行いました。
- その結果、下表のとおり改善が図られ、競争性が高まりました。



－ 主な取組み内容 －

- (1)公告期間の延長や、ファクシミリによる案内送付を行いました。
- (2)応札者の地域要件の撤廃や大幅な緩和、提出書類の簡素化を行いました。
- (3)施設管理の補助業務等について、新規参入者に配慮し、業務開始前に研修を実施できるよう仕様書に明示しました。
- (4)年度当初から業務を開始する案件について、請負者が準備期間を確保できるよう入札日を前倒し(1～2ヶ月)しました。
- (5)経年的な業務について、契約期間を2～3年とする複数年契約を導入しました。
- (6)設備の新設・更新業務について、後年度の点検業務を合わせた複数年契約を導入しました。
- (7)同種業務については、発注規模が大きくなるよう近隣事務所でまとめ一括発注しました。

「水都おおさか森林（もり）の市」で機構事業をPR

10月8日(土)・9日(日)の好天に恵まれた両日、「暮らしの中に木づかいを活かそう日本の森林」をキャッチコピーに、今年も大阪アミティパーク(OAP)、近畿中国森林管理局、毛馬桜之宮公園周辺を会場に「水都おおさか森林の市2011」が開催されました。

このイベントは、都市と森林を結ぶ川の役割や、森林や林業の大切さや木材利用の意義を都市住民の皆さんに伝えるとともに、生活に欠かせない大切な森林を未来に引き継いでゆくことを目指し、平成17年から開催されています。

大阪市立扇町総合高等学校吹奏楽部のマーチングパレードで始まったイベント会場では、木や紙を使ったおもちゃ作り、丸太切り、ドラゴンボートなどの体験ブース。木工品、ふるさと農産物などの販売ブース。国産材・間伐材を使ったDIY用品等の展示ブースが設けられ、両日で約2万5千人の参加者で賑いました。

関西支社も管内施設紹介のほか、琵琶湖開発総合管理所のヨシ植栽などの環境保全の取組や、またダム湖に流入した流木を活用したイベント（流木アート大会）について紹介しました。



【機構展示ブース】

詳細はこちらをご覧ください。

(近畿中国森林管理局HP、イベント情報)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



【流木アート作品】

※この作品は洋画家の安食慎太郎先生の指導により子供達がペインティングしたものです。

琵琶湖・水辺の環境展

開催報告

高島市の農業・漁業などの関係機関が連携する「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」は、10月29日(土)イオンモール草津・イオンホールにおいて、暮らしをささえる琵琶湖の役割や自然の豊かさを維持する活動を紹介し、流域の皆さんに水の大切さを伝えていくため、「水辺の環境展」を実施しました。

琵琶湖では、昔ふつうに見られた「うおじま^{*}」やたんぼへの産卵の風景を復活させ、琵琶湖固有種であるニゴロブナ、ゲンゴロウブナやホンモロコを増やすための対策が求められており、その取り組みを紹介するパネル展示を実施しました。

当日は、多くの方々が来場され、担当者の説明を熱心に聞かれたり、琵琶湖を知っていただくためのクイズに参加していただきました。

また、イオンモール草津の目の前に位置する水資源機構の新浜ビオトープへも案内し、フナなどの生き物を観察していただきました。

今後も、琵琶湖の環境を引き続き守る活動を紹介し、水を大切に使うことを伝えていきたいと思っております。

なお、協議会において参加者からのアンケートを実施したところ、ほとんどの方が「琵琶湖の水を大切にしたい」「琵琶湖の環境を守っていきたい」との意見が多く寄せられました。パネル展示会を開催したことに成果があったと感じております。

※「うおじま」とは、産卵のために湖岸に近づく魚の群れが、まるで島のように見えた様子をこう呼んでいました。

(琵琶湖開発総合管理所 環境課)



琵琶湖の固有種を増やす取組紹介



新浜ビオトープの見学

参考：(ビオトープ)

近年は、ヨシ群落や湖畔林の減少、琵琶湖周辺の内湖の減少、湖岸堤の設置、および^{ほじょう}圃場整備事業等に伴う用・排水路の分断など、湖辺域の連続性が低下、即ち、魚類の移動経路の分断などの影響により、生物の繁殖・生息の場が減少しています。

新浜ビオトープとは、湖岸堤の陸側の管理用地を有効活用し、ビオトープと琵琶湖を魚類が往来できる水路で繋ぎ、魚類が繁殖・生息するための環境整備を実施しています。

主催：琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会 後援：草津市 協力：イオンモール草津

「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」は次の機関により運営されています。

- ・高島市環境政策課・高島地域みずすまし推進協議会・針江農事改良組合・深溝農事改良組合・太田農事改良組合・湖西漁業協同組合
- ・針江区・針江生水の郷委員会・今津中学校・国土交通省琵琶湖河川事務所環境課・(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所環境課

『来て見て体験in村野浄水場』 イベントが開催される！！

11月6日（日）に、大阪広域水道企業団村野浄水場で、『来て見て体験 in 村野浄水場～水とふれ水を知り水に学ぼう～』と題して、記念イベントが開催されました。

当日は天候に恵まれず雨模様でしたが、来場者数が2,000人を超え、イベントは大盛況でありました。イベントでは、大阪広域水道企業団の紹介ブースがあり「淀川の水がおおさかの水になるまでを見てみよう」と題し「浄水場見学ツアー」をメインとし、「実験コーナー」、できたての水道水と市販されているミネラルウォーターを飲み比べる「利き水コーナー」などがあり、多くの方々がツアーに参加したり、利き水に挑戦をされておられました。地元自治体、NPOや企業が展示ブースや体験コーナーを設け、ミニ消防車に実際に触れてじっくり中をのぞき込んだり、ペットボトルロケットの打ち上げ体験に挑戦されたりしておられました。

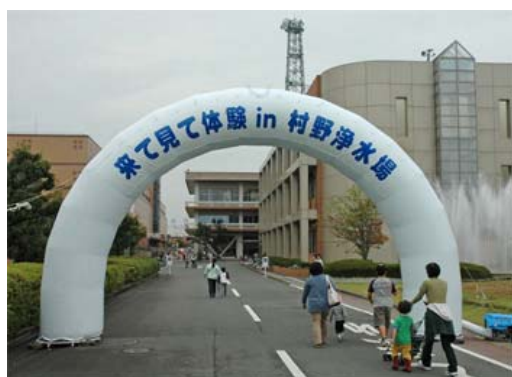
また、地元自治体等がグッズを配ったりしてのPR活動の実施や、地元東海大学付属仰星高等学校吹奏楽部による演奏も行われたくさんの方々が聞いておられました。

水資源機構は、琵琶湖開発総合管理所、木津川ダム総合管理所、一庫ダム管理所、日吉ダム管理所が展示ブースを設け、事業のPRに努めておりました。展示ブースの空きスペースを利用して、ペットボトル・ボウリングを開催し、ちびっ子から大人まで大盛況でありました。また、「水をイメージする漢字を書いてみよう」というクイズも出し、その答えに“橋”や“田”が出てきた時には、驚きを感じました。

参加者からは、「おおさかの水になるまで」に随分関心をもたれたり、「青蓮寺湖周辺は、桜を見たり、ブドウ狩りするのに、イイ所だね。」や「水資源機構のダムって、いつでも見学できるの？」という水源地やダムに興味を持っていただいた意見や質問も多くありました。

大阪広域水道企業団村野浄水場におけるイベントを通じて、水源地の環境や水の大切さを認識していただけたと感じております。

(利水者サービス課)



(村野浄水場イベント・モニュメント)



(琵琶湖に生息する魚たちの展示)

「尼崎浄水場特別開放イベント2011」に行ってきました。

11月5日（土）に、阪神水道企業団尼崎浄水場の特別開放イベントへ行ってきました。

当日は、雨がぱらつく、あいにくの天気でしたが、普段では見られない、水のできる仕組み（淀川から取水し、淀川取水場からポンプ圧送で送られてきた川の水を、凝集剤により細かな砂や濁りを固め、オゾン処理、活性炭処理、ろ過処理などの処理を経て、高度浄化処理水としてできる行程など）について、各施設での処理の過程を実際に見たり、説明を聞きながら見学することができました。

見学の中には、市販の水と尼崎浄水場でつくられた高度浄化処理水を飲み比べ、高度浄化処理水を当てるイベントコーナーもあり（チャレンジの結果、高度浄化処理水を当てることはできませんでしたが・・・）、多くの方々が（僕もその一人として）、楽しみながら、また、興味深く見学しておりました。

今回は、水道を利用する者として、いつもとは、違った視点で、水に関して勉強することができ、水の大切さや、自分自身の仕事に対する視点を見つめ直すことができました。今後も、機会があれば、他の見学会にも積極的に参加したいと思います。

（利水者サービス課）



【浄水場入口の風景】



【オゾン処理・活性炭処理施設にて】

水源地 マラソン紀行



大阪マラソンの抽選に外れてしまいましたが、昨年よりはじめて淀川水系のダム周辺など開催されるマラソン大会に今年も、もれなく出場することを密かに心に決め、各地の大会にエントリーしています。先ず手始めに丹生ダムのお膝元である余呉町（現長浜市）で開催される「余呉湖健康マラソン」を走り、次は淀川の下流で開催され、唯一、淀川大堰の管理橋の通行が許される「淀川市民マラソン」を走りました。

淀川市民マラソンは、今年で15回を迎えた大会で、11月6日に開催されました。この大会は淀川の堤防敷を走ることもあって、制限時間も大阪マラソンよりも長い8時間となっており、最初にフルマラソンを走る人の参加が多い大会です。また、今年の大大会では、ゲストに金メダリストの高橋尚子選手をお迎えするというたいへんな盛り上がりを見せています。

ランニングを再開して約1年ですが、人生初のフルマラソンのデビューとなる大会です。コースは守口市淀川河川公園をスタートし淀川左岸を北上し枚方大橋手前で折り返し、スタート地点まで戻り、そのまま淀川大堰まで南下し、淀川大堰の管理橋を右岸に渡り、更に十三まで南下して折り返し、スタート地点まで戻るコースです。スタート直後は生暖かい気温で、スタート直後から汗が出ますが、10kmを過ぎたあたりから小雨が降り出し、20kmあたりまで小雨が続き、今度は体が冷えていきます。参加選手も多いせいか、なかなかスピードに乗れません。中間地点であるスタート地点に戻って来た時には多くの参加選手の家族に迎えられ、温かい声援に励まされます。この大会では、ゼッケンナンバーの上に自分の愛称が記載されています。この愛称は申込時に申告するのですが、応援する人はその愛称で応援してくれるのです。知らない人から自分の名前でも応援されると何だかこみ上げてくるものがあります。

苦しみも何とか声援に支えられ、そこからはいよいよつらい30kmへとさしかかります。25km過ぎと35km過ぎに淀川大堰を通過しますが、河川敷から淀川大堰を数メートル上り下りするのも辛く感じられ、体も相当バテています。せっかく練習したのだから、何とか歩かずにと悶々としているうちに、何とかゴールできました。

何といっても悔いが残るのは、中間地点で高橋尚子選手がハイタッチで励ましてくれていたそうなのですが、応援で気づかず通り過ぎてしまったこと。完走した喜びも、何だか半分くらい残念な気持ちになり、ハイタッチしていればあと10分は早かったのでは・・・、目標タイムには及びませんでした。無事に走り切れたことは何よりでした。

(利水者サービス課 ダムを走る男)



当日はどんよりした天候



大会会場にて大阪市水道局のコーナー発見

編集後記



今年も早いもので、1年が過ぎようとしています。人々の行き来にも慌ただしさを感じる今日この頃です。

今年の大きな出来事としては何ととっても3月11日14時46分に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、日本国内各地に甚大な被害が生じたことです。死者数1万5千人を超え、今もなお、東北地方の各地には、深い爪痕が残っており、一日も早い復興を祈るばかりです。利水者・自治体の方々におかれましては、震災直後の復旧にご尽力されており、心より敬意を表します。

この地震を契機として、関西地方においても企業や自治体の危機管理についても根本からの見直しが求められ、特にBCP（事業継続計画）の実効性が求められているところです。

水資源機構をめぐる現下の情勢としては、昨年より行政刷新会議による事業仕分けを受け、現在も「独立行政法人改革に関する分科会」による組織・制度の見直しが進められています。引き続き、事業仕分けの関連については情報提供を行ってまいります。また、本年秋には水資源機構が保有する積立金について、今後の活用計画を各利水者の方々に説明いたしました。今後ともこの積立金については有効に活用すべく検討していく所存です。

地震による福島原発事故の影響で、各電力会社からの供給力が需要見通しを下回ったため、今夏は各地方、各機関、各家庭において節電に取り組んできました。今冬にも節電が要請されております。年末・年始に体調を崩さないように十分ご注意ください。

激震の走った1年ですが、本年もお世話になりました。皆様、良い年をお迎え下さい。

追伸：夏にはじめた大阪城RUNですが、まだまだ続いています。関西支社管内でもランナーが増えており、年明けの「月ヶ瀬梅溪早春マラソン（高山ダム）」、「青蓮寺湖駅伝」が楽しみです。

平成23年12月

関西支社 利水者サービス課長 今井敬三

[水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望・ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。（耳寄りな情報もお待ちしております。）](#)



mailto:w-kansai@msg.biglobe.ne.jp

